

委員からの事前質問

質問者	議題	資料No.	内容
田代委員	(1) 障がい者生活支援センターの活動報告について	資料1 (P1)	<p>【障がい者生活支援センターあっとわんの傾向と所感について】</p> <p>1 不登校に関する相談で、親が学校以外や家族以外と関わる場所を探し求めている様子があったとあるが、どのような場所を求められているのか。またどのような資源を紹介しているか。</p> <p>2 登園、降園ということは、幼稚園、保育園かと思うが、どのようなボランティア団体に結び付け、断られたのか。また、送り迎えなど車ではなく、徒歩で自宅と園を往復する際、複数の兄弟姉妹を同時にひとり親が連れていくことが不可能だという意味か。現在はどのように工夫されているのか。</p>
吉田委員	(1) 障がい者生活支援センターの活動報告について	資料1 (P1)	<p>【障がい者生活支援センターかすがいの傾向と所感について】</p> <p>一般就労の方に対し、会社がつなぎとめる傾向にあるとの記載がある。ご本人の思いがどうなっているのか心配になった。ちゃんとご本人の思いが活かされる支援をお願いしたいと感じた。</p>
田代委員	(2) 連絡会及び部会の報告について	資料3 (P5)	<p>1 育成会が、わーくはびねす農園あいち春日井ファームに見学に行かれた理由と感想を聞きたい。</p> <p>2 若い方のほうがグループホームの体験や入居を希望されているというのは、肌感覚なのか、調査をされたのか。また、なぜ高齢の方より若い方のほうが体験や入居を望んでいると感じられるのか、その理由があれば聞きたい。</p>
水野委員	(2) 連絡会及び部会の報告について	資料3 (P5)	<p>当事者団体連絡会の報告より、11月に育成会がわーくはびねす農園あいち春日井ファームを見学されている。福祉サービスとは違った形態で賛否あると思うが、今後このような会社の周知や事例を交えた意見交換を図る機会が持てるとよい。</p>

質問者	議題	資料No.	内容
戸田委員	(2) 連絡会及び部会の報告について	資料4 (P6)	来年度の取り組みとして「医療的ケア児者が利用できる社会資源等の情報」を作成され、部会としての活動に期待します。必要とする多くの人に伝わる方法も考えていただきたい。
高木委員	(2) 連絡会及び部会の報告について	資料2 (P5) 資料5 (P7) 資料6 (P8)	資料2の項目5、資料5の項目3、資料6の項目4の(2)において「相談支援連携部会」が、今年度で終結することとなる旨の記述があり、各資料の中では「障がい者生活支援センター連絡会」の中で継続（継承）される記述がある。これまでの活動内容が全て継続されるのか、内容を精査して一部が継続となるのか。
田代委員	(3) その他	資料7 (P10)	GH体験入居では、当事者団体連絡会の報告にもある通り、体験を進めるひとつの課題である「親ではない「送迎」がネックで、体験に踏み込まないケースが多かった。グループホームを体験するだけではなく、グループホームを利用した場合、どのような生活になるのかを描かれている。体験事業を行う法人だけではなく、市全体で考えていく問題になると思うため、どのように提案すれば事業所との連携や理解が図れるか聞きたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・日中事業所は個々の体験のために、送迎コース、順番を変えることが不可能。 ・有償運送を体験時に利用するにしても、料金が高い。 ・体験事業のなかに送迎も可能になる補助金を加えてはどうか。
戸田委員	(3) その他	資料7 (P10)	GH体験入居では、「送迎を保護者が担う場合が多く」、「送迎については引き続き検討課題である」となっています。将来、グループホームで生活することをめざしての体験だと思うので、保護者の送迎ではない対応を早急にお願したい

質問者	議題	資料No.	内容
水野委員	(3) その他		<p>今年度文部科学省「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究」事業の一環として「障害者の生涯学習実践研究講座（全7回）」と、そのまとめとして「地域における障害者の生涯学習推進コンファレンス」が文化フォーラムで行われている。市議や市職員等も参加し各会とも活発な討論が交わされたと聞いている。総括を行った田中良三先生も言われていた、①春日井市の学校卒業後の学び場不足（就労だけでなく学び続けるという選択肢がない）②支援者や理解者の養成③情報弱者解消などの課題を春日井市共通の課題として、講座を主催された志村様や田中先生、その他関係者の方々とも協議できたらと思う。</p>